

江戸時代にタイムスリップ!

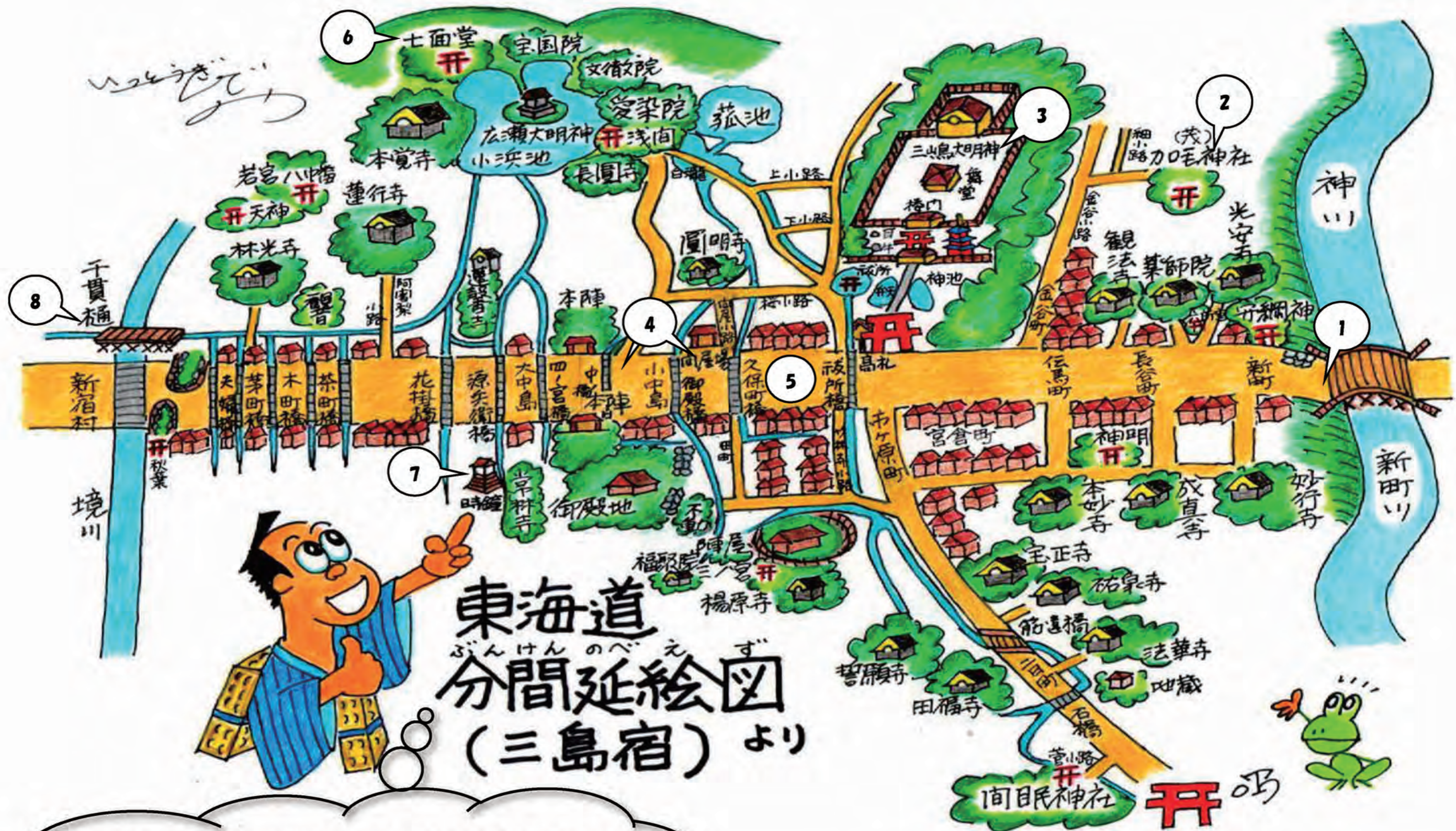
GO!

弥次さん、喜多さんと歩く東海道三島宿の観光スポットへ

—藤木秀光の「マンガで描くふるさと三島」より



江戸時代の旅行マップをマンガで
分かりやすく再現しました。



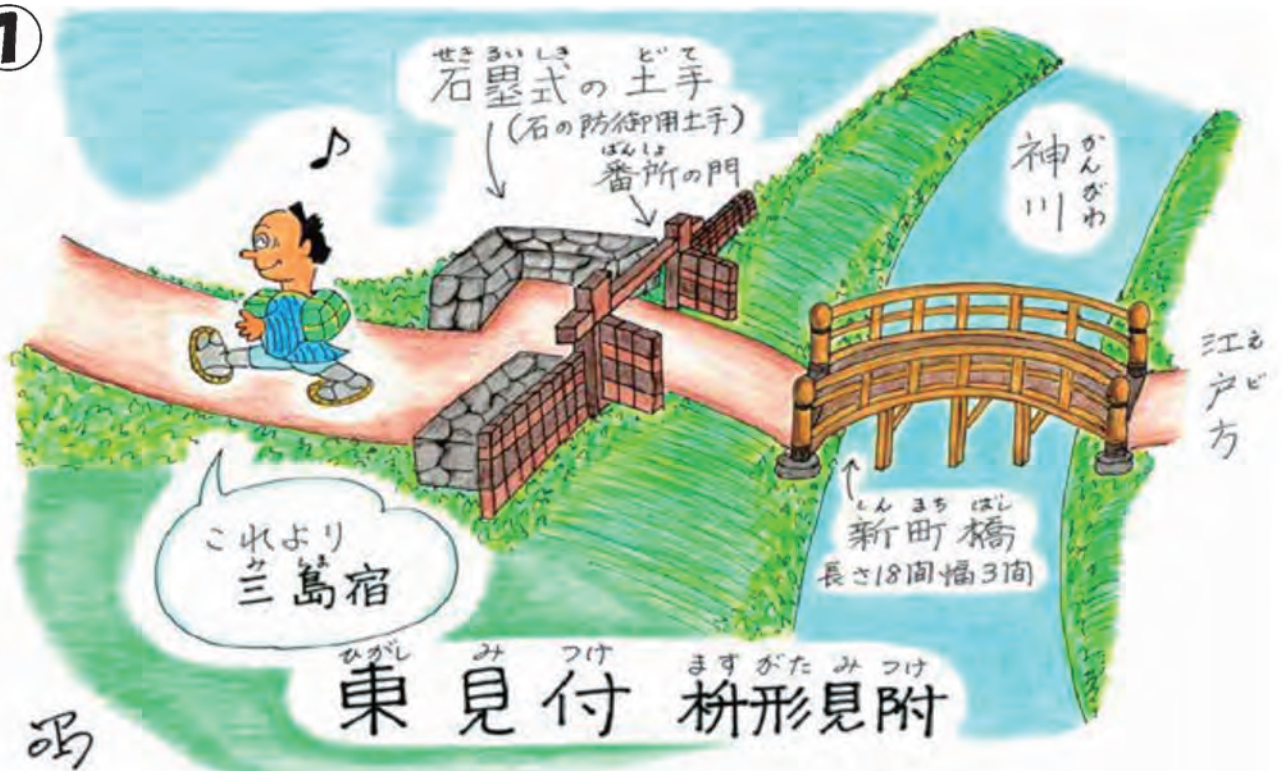
東海道
ぶんけんえのべえ
分間延絵図
(三島宿) より

東海道分間延絵図は、江戸時代後半(1800年頃)に幕府が道中奉行に命じて作らせたものです。詳細な三島宿の絵地図です。それをマンガにしました。このマンガ絵図を見ながら三島の町を歩いてみて下さい。江戸時代のままの道や神社やお寺が残されているのが発見できます。

さあ、江戸時代にタイムスリップ!

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------------|
| ① ひがしみつげ
東見付 | ② みしまごよみ
三嶋厩 | ③ みしまだいみょうじん
三嶋大明神 |
| ④ といやぼ
問屋場 | ほんじん
本陣 | ⑤ はたご
旅籠 |
| ⑥ しちめんどう
七面堂 | ⑦ ときかね
時の鐘 | ⑧ せんがんとい
千貫樋 |

1



東見付には枅形をした石の防御用土手がありました。

真っすぐに宿場が見通せないように築かれたものと思われます。

幕末から明治維新の頃に描かれたと思われる街道絵図には門が描かれ、三島宿東の入り口でした。

2



日本最古の仮名文字で印刷された曆(太陰太陽曆)で三島宿の最高のお土産でした。

三嶋曆は、鎌倉時代の頃から河合家(加茂氏)により三島で作られていたと言われています。

河合家は現在も続いています。

3



三嶋大明神は「延喜式神名帳」に記載されている名神大社で伊豆国一宮です。
 伊豆大島や三宅島等の伊豆諸島の開拓神とされています。
 江戸時代は未だ神仏習合の時代で三重塔もあり、一番の名所でした。

4



「問屋場」はいまの中央町郵便局の場所にあいました。
 公用物の継ぎ送りと旅人の馬や人足の手配をする場所です。
 「本陣」は今の本町の交差点を挟んで北と南に「世古本陣」と「樋口本陣」とがいました。

5

東海道 三島宿

旅籠74軒+木賃宿 = 宿泊
1 階 帳場・調理場・湯殿・家族従業員住居
2 階 客室



二階建ての木造の旅籠がズラリと並んでいます。

三島宿は箱根を越えなければならないので、旅籠はいつも賑わっていました。

旅籠には平旅籠と飯盛旅籠とがありました。江戸時代の三島宿は、とても楽しそうです。

6



現在の「楽寿園」の売店近くに七面大明神(七面天女)を祀った「七面堂」がありました。

江戸時代は三嶋大明神に次ぐ観光名所でした。

女性に人気のあった神様で、周りの景色も良かったので人気がありました。

7



昔は「ゴーンゴーン…」と、時を知らせる鐘が鳴っていました。
 三島宿の「時の鐘」は広小路付近にありました。
 ここも江戸時代の観光名所でした。「三石神社」があり源兵衛川が流れています。

8



千貫樋は伊豆国と駿河国の国境の境川に架かった樋で、江戸時代の観光名所でした。
 戦国時代に、北条氏から今川氏へ嫁がせた娘の引き出物として小浜池から用水路を築き、
 伊豆から駿河に送水したと言われています。

江戸時代の文献「五海道中細見記」1858年刊三島宿の旅行マップ



三島市郷土資料館所蔵「五海道中細見記」

発行：三島ルーツ探究会

著者：一藤木 秀光

編集協力：池谷 美津子

協力：静岡県地学会東部支部 三嶋暦の会 三島市郷土資料館

三島市 三島市教育委員会 三島市観光協会

問い合わせ：三島市教育委員会文化財課

〒411-0035 静岡県三島市大宮町 1-8-38

三島市生涯学習センター4階

TEL 055-983-2672